

・新聞は情報の伝達手段という機能だけではなく、教育的・素材的にもさまざまな機能を持ち合わせている。ここで新聞の教育的な面から見た主な特徴を二つ挙げたい。

一つ目は時事性を持っているということである。最新の出来事を扱つており、児童が今の社会に関心を持つきっかけを持つことにつながるとともに、現実とのつながり学習をより意味付けることができると考える。

二つ目は、視覚的要素が豊富であるということである。写真・図表・イラストなどが多く含まれており、視覚的に情報を捉える力を育てることができるとともに、児童の理解にもつながると考える。

このように、新聞は単なる読む教材ではなく、考える・話す・作る教材として多様な場面で活用することができる。特に、児童の主体性や愛和を重視するような授業づくりにおいて新聞は活用しやすいものであるとも考える。

加えて、新聞を活用する意義をここで二つ挙げる。一つ目は、時事性と現実性のある教材であるという面を持つことである。新聞紙は今起きていることを扱うため、児童の関心を惹きやすく社会の動きと学習内容を結びつけやすいと思う。

二つ目は、多様な視点を得られることである。新聞紙は同じ記事でも新聞社によってさまざまな視点で記されていることが多い。複数詞を深くすることによって、同じ出来事でも異なる見方ができるということを学ぶことができ、批判的な思考力や情報リテラシー力を育むことができると考える。

ここで社会科における実践例として中学年・高学年での活動を考える。新聞記事を読み、記事を要約したり意見文を作成したりする活動、討論や意見交換会を通して、自分なりのその記事の観点に関する模擬新聞を作るという内容ができると考える。このように、新聞紙を活用することで教科書だけでは得ることのできない力や考えを得られるので、ＩＣＴも活用しつつ新聞紙を取り入れていくことも重要だと感じた。

・小学校社会科の授業では、児童が社会の仕組みを理解し、よりよい社会の形成に主体的に関わる力を育成することが求められている。そのためには、社会の動きを具体的に実感できる教材の活用が重要であり、新聞はその手段の一つである。新聞には政治、経済、地域、環境など様々な分野の情報が掲載されており、児童が社会の現実に触れ、自分の生活とのつながりを考えるきっかけとなると思う。

具体的な活用方法としては、まず時事的な記事を教材として読み取り、社会の仕組みや課題について考える活動が挙げられる。たとえば、地域に関する記事を通して学習を行うことで、地域社会における行政や住民の役割を具体的に理解できる。また、児童自身が取材や調べ学習を行い、学級新聞や地域新聞を作成する活動も有効である。これにより、情報を集めて、整理し、表現する力が養われる。

さらに、複数の新聞の記事を比較し、見出しや表現の違いを分析することで、情報の見方や多様な意見があることを学ぶこともできる。

このような新聞の活用は、児童の社会への関心や学習意欲を高め、思考力・判断力・表現力を育てる効果がある。さらに、現代社会で求められる情報活用能力やメディアリテラシーの育成にもつながる点が重要である。

一方で、記事の内容が難しかったり、新聞社によって政治的・社会的な偏りを含む場合があったりするため、教師が適切な記事を選ぶことや指導の工夫が必要である。

新聞を活用した社会科授業は、児童が現実社会と自らの生活を関連づけて考える力をつける実践的な学習である。教師は児童の発達段階やそれぞれの地域の実情を踏まえながら、新聞を通して社会に開かれた学びを実現することが求められる。

・新聞を活用した小学校社会科授業は、児童の社会的関心を高め、情報活用能力や批判的思考を育む上で有効であると考える。社会科は、「社会の見方・考え方」を育てる教科でもあり、新聞という現代社会の情報源を教材として用いることで、児童は抽象的な知識を具体的な事象と結びつけながら学ぶことができるはずだ。

具体的に、新聞活用の意義の一つ目としては、児童が「今、社会で何が起きているのか」を知ることで、学習内容が生活とつながり、学びへの関心が高まる点にある。

これは私の経験であるが、塾で指導している生徒が最近は公民の勉強が楽しいのだと教えてくれたことがある。その理由を問うと、総理大臣が高市さんになったというニュースをテレビや新聞でよく耳にするので、「内閣」や「国会」の範囲に親しみや興味を持つようになったからだそうだ。この経験から、子供自身が授業の中で学習している内容が、実生活と結びついている実感があれば、学ぶ目的を得ることができるし、学習意欲も向上していくと考えられる。よって授業内容を実生活と結びつける教材として、「新聞」は効果的に活用していくべきである。

そして、二つ目の意義としては、新聞は情報リテラシーの育成に寄与する点である。今回の対面授業でも行ったが、見出しの読み取り、複数紙の比較などを通じて、児童は情報の取捨選択や批判的な読み方を学ぶことができる。多くの情報に簡単に触れることができる現代社会であるからこそ、正しい情報を選び取っていくスキルを授業の中で養っていくことは必要不可欠であると考える。

このように小学校社会科授業における新聞活用は多くの意義もある一方、家庭での新聞購読の減少によって新聞を集めるのが難しい現状もある。なので紙媒体だけでなく、デジタルでの新聞の活用も行いながら、児童に実践的で深い学びを提供できるような授業展開を行っていったい。